

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国際関係論入門 International Relations		1年・2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	( )	国際関係論・国際政治経済学に関心の高い学生
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
国際文化論入門				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
金井尊史	講義棟1F 講師室	授業の開始前及び終了後		授業中に指示します
授業の概要				
国際関係論という学問分野について基本的な知識の習得を目指す。どのような視点で時事問題を含む国際問題を理解すべきか、さらに国際社会で生きていくには何が必要かを考える。政治問題や社会問題を理解し、自分の考えを他人に適切に伝えるために必要となる論理的な思考法と説明法を身に付ける。				
授業の目標				
歴史的な出来事を材料として、現代の国際社会の構造とそれに至る経緯を国際関係学・国際政治経済学の視点から説明できるようにする。				
授業の方法				
毎回授業の要点を纏めたレジュメを配布し、それに基づいてグループディスカッション等を交えながら講義形式で進行する。				
学習の成果（学習成果）				
①近代以来の国際社会における主要アクターに関する知識を修得できるようにする。 ②国際関係論における各種理論の基礎を修得できるようにする。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	国際関係論とは何か（研究領域と考え方）			
第3回目	国家とは何か（国家の基礎理論・構成要素）			
第4回目	外交とは何か（外交の基礎的事項）			
第5回目	国際関係史（1）ウエストファリア体制の成立からナポレオン戦争まで			
第6回目	国際関係史（2）第二次世界大戦まで			

第7回目	国際関係史（3）第二次世界大戦終結から現在まで	
第8回目	国際関係史の中の日本（1）幕末から第二次世界大戦まで	
第9回目	国際関係史の中の日本（2）第二次世界大戦終結から現在まで	
第10回目	中間試験と解説	
第11回目	安全保障とは何か・日本の安全保障	
第12回目	国際機構と国際機関	
第13回目	国際法（平時・戦時国際法）	
第14回目	現代の国際情勢と問題点	
第15回目	全体のまとめと試験の説明（模擬試験）	
事前・事後学習	インターネット、文献等を活用し、疑問が残った部分を調査する	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	40%	教材を常に準備して臨んでいる。授業に集中しノートをとっている。不明な点があれば積極的に質問している。（詳細は第1回で説明）
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	中間試験と16週目の期末試験を実施する。授業で扱った事項に関し、正確に理解し回答している。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
無し（レジュメを毎回配布する）		
履修上の留意点・ルール		
課題意識を明確にして受講する事。遅刻、無断欠席厳禁。		